

施策分析シート（令和8年度）

No1

施策名	体験学習等の推進	施策No	04-03	部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課
関連部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課、子ども家庭部子ども・若者課、教育委員会事務局学務課・指導室				
行政評価事業体系	分野	Ⅱ	子育て教育都市		
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成		

目的	自然体験等を通して、子どもたちに「生きる力」や「思いやりの心」、「他者への共感」「自己肯定感」等を育む。また、ものづくり体験や勤労体験を通じて、子どもたちの「創造性」や「自主性」を醸成する。				
----	---	--	--	--	--

指

<

（単位：千円）

行政コスト計算書	勘定科目		6年度	7年度	差額	行政収入	勘定科目		6年度	7年度	差額
行政費用	行政費用	給与関係費	20,383	24,689	4,306	行政収入	地方税等		0	0	0
		物件費	171,262	172,731	1,469		国庫支出金		0	0	0
		維持補修費	4,453	28,434	23,981		都支出金		0	0	0
		扶助費	0	0	0		分担金及び負担金		0	0	0
		補助費等	10,498	60,423	49,925		使用料及び手数料		0	0	0
		減価償却費	21,815	22,481	666		その他		12,854	28	▲ 12,826
		不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0		行政収入合計(a)		12,854	28	▲ 12,826
		賞与・退職給与引当金繰入額	4,858	8,543	3,685		行政収支差額(a)-(b)=(c)		▲ 220,415	▲ 317,273	▲ 96,858
		その他行政費用	0	0	0		金融収支差額(d)		▲ 4	▲ 3	1
		行政費用合計(b)	233,269	317,301	84,032		通常収支差額(c)+(d)=(e)		▲ 220,419	▲ 317,276	▲ 96,857
特別費用	特別費用	特別費用(g)	0	0	0	特別収入	特別収入(f)		0	0	0
		特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0		当期収支差額(e)+(h)		▲ 220,419	▲ 317,276	▲ 96,857
貸借対照表	勘定科目		6年度	7年度	差額	貸借対照表	勘定科目		6年度	7年度	差額
	流動資産	収入未済	0	0	0		流動負債		2,010	2,076	66
		不納欠損引当金	0	0	0			還付未済金		0	0
		その他の流動資産	0	0	0			特別区債		1,249	1,250
	固定資産	有形固定資産	226,064	203,583	▲ 22,481		固定負債	賞与引当金		761	826
		土地	87,041	87,041	0			その他の流動負債		0	0
		建物	770,687	770,687	0			特別区債		18,254	21,526
		建物減価償却累計額	▲ 631,664	▲ 654,145	▲ 22,481			特別区債		6,254	5,004
		工作物等	4,209	4,209	0			退職給与引当金		12,000	16,522
		工作物等減価償却累計額	▲ 4,209	▲ 4,209	0			その他の固定負債		0	0
		無形固定資産	0	0	0			負債の部合計		20,264	23,602
		建設仮勘定	0	0	0	正味財産	正味財産		205,800	179,981	▲ 25,819
		その他の固定資産	0	0	0		正味財産の部合計		205,800	179,981	▲ 25,819
		資産の部合計	226,064	203,583	▲ 22,481		負債及び正味財産の部合計		226,064	203,583	▲ 22,481

財務諸表に関する特徴的事項等

- 行政費用として、物件費の割合が高くなっており、主に清里・下田移動教室事業が多く占めている。
6年度と7年度の差額は、主にバス借上げ料の高騰によるものである。
- 6年度の行政収入のその他は、下田臨海学園、下田移動教室、清里移動教室の参加児童の賄収入等であり、7年度からは保護者負担軽減事業により減となっている。
- 貸借対照表に計上されている有形固定資産は下田臨海学園に関するものである。

施策の現状・課題・今後の方向性

現状	○荒川区自治総合研究所による平成27年度の「自然体験を通じた子どもの健全育成研究プロジェクト」において、自然体験が子どもたちに与える影響について研究した結果、自然体験により磨かれた感性は多くの体験の機会を与え、それが間接的に「生きる力」の滋養を促し、その結果、現実肯定感が大きく向上すると分析している。 ○研究結果により、国内交流都市ツアー、自然体験を通じた青少年健全育成活動事業補助等の相互交流事業及び全国連携事業など自然体験事業を実施している。 ○中学校では、職業観や勤労観を培うキャリア教育を充実させるために、社会生活での責任や勤労の大切さを体験的に学ばせる「勤労留学」を全校で実施している。 ○区では、自然まるかじり体験塾や小中学生のチャレンジキャンプ等、様々な自然体験関連事業を実施及び支援している。
課題	○子どもたちが多様な経験を積むことができる機会を拡充していくことが求められる。 ○子どもたちが親元を離れて生活する自然体験事業への参加を促すには、保護者が自然に関心を持ち、自然体験事業への意義を理解することが大切である。 ○「勤労留学」等の社会体験活動が、子どもたちの社会生活での責任感を養うとともに、自分の将来を考える機会となるよう、多様な体験の機会を設ける必要がある。
今後の方向性	○自然への畏敬の念や子どもたちの「生きる力」を育むため、豊かな自然があふれる自治体や子ども関連団体、NPO等との連携により、これまで以上に自然体験事業の質・量共に充実を図り、自然体験事業の裾野を広げる。 ○親子で参加できる自然体験教室など、保護者の自然体験への関心等が高まる工夫をし、子どもたちが積極的に自然体験の機会を得られるよう環境を整える。また、対象者にあったプログラムの検討や効果的な広報等により、参加者の増にもつなげていく。 ○身近な地域での多様な体験や、人との交流・活動を通じて子どもたちに他者への共感や思いやりなどの豊かな心を育むとともに、自らの生き方を主体的に考えられるよう、キャリア教育の更なる充実を図っていく。

施策の分類		分類についての説明・意見等	
8年度	9年度		
重点的に推進	重点的に推進	子どもたちの健全育成に必要な体験活動を推進するため、自然体験を通じた、体験活動の充実を図り、地域と一体となった子どもたちの健全育成に努める。	

施策を構成する事務事業の分類								
事務事業名	事務事業 No	行政費用（千円）		決算額（千円）		施策推進のための 分類		分類についての説明・意見等
		6年度	7年度	6年度	7年度	8年度	9年度	
少年団体指導者連絡会事業費	05-02-01	7,176	6,548	3,688	2,883	重点的に推進	重点的に推進	体験活動は子どもたちの健全育成に必要であり、自然への畏敬の念や自主性、協調性、社会性といった「生きる力」を育むために重要な事業であるため、重点的に推進する。
少年教室	05-02-02	7,492	8,736	953	1,007	継続	継続	子どもたちに多様な体験の機会を提供する事業であるため、継続して実施する。
下田臨海学園	13-03-34	78,679	117,519	54,525	91,313	推進	推進	水泳を中心とした心身の鍛錬や海での自然体験は学校では体験できないものであり、優先度は高いため、推進する。
体験学習推進事業	13-04-03	5,530	7,991	2,231	2,331	推進	推進	地域と連携し勤労留学を推進していく。
清里移動教室	13-04-05	61,387	88,597	56,636	81,157	継続	継続	学校の創意工夫を支援し、継続して実施する。
下田移動教室	13-04-06	73,002	87,911	68,912	82,897	継続	継続	学校の創意工夫を支援し、継続して実施する。
合 計		233,266	317,302	186,945	261,588			